

2022年12月1日
第558号
(毎月1日発行)

咲いたネット
URL：
http://www.saitanet.or.jp
Eメール：
saita@saitanet.or.jp



発行所
埼玉県労働組合連合会
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂
3-10-11 第一木村ビル
TEL 048-838-0771
FAX 048-838-0775
編集発行人
埼玉県労働組合連合会
【定価】1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)



朝霞市との懇談

働き方改革で定められている時間外規制に対する対応、実施から3年目になる「会計年度任用職員」の運用、公契約適正化に向けた各自治体の考え方、高齢者の雇用(シブバー人材センター)について、事前学習会で各自治体ごとに中心となる課題を決め、約1時間強の意見交換を実施しました。

働き方の課題では、正規職員の長時間労働について、コロナ禍への対応によることなどが報告されましたが、民間企業では違法となる、月100時間・年間720時間をはるかに超える働き方をしている状況の改善が求められ、会計年度任用職員制度については、正規職員との待遇格差是正が次年度に向けた引き続きの課題となります。

公契約の課題では、設計労務単価の引き上げが現場の技

子(2面に各自治体の懇談の様子を掲載)

春闘期に向けて今回の懇談を活かしていきたいと思います。

高年齢者の雇用の安定については、安心して働ける環境づくりを自治体からという要請に対して、派遣労働への移行など、一部自治体では変化も見られますが、全体的には理解が進まない現状が課題として残っています。

埼玉労連は、11月14日から18日にかけて、県内の63自治体(毛呂山町・宮代町は書面による回答)と懇談する、2022年全自治体訪問行動を行いました。

今年で21回目となる訪問行動は、引き続きコロナ禍という特殊な状況の中、自治体行政の役割について例年以上に意識する取り組みとして臨みました。

今こそ行政ではたらく労働者の処遇改善を 2022年全自治体訪問行動

働き方改革で定められている時間外規制に対する対応、実施から3年目になる「会計年度任用職員」の運用、公契約適正化に向けた各自治体の考え方、高齢者の雇用(シブバー人材センター)について、事前学習会で各自治体ごとに中心となる課題を決め、約1時間強の意見交換を実施しました。



深谷市との懇談

紙面から

- 自治体訪問行動 (1面~2面)
- 県政要求行動 (3面)
- 埼玉アクションのとりくみ (4~5面)
- 地公労宣伝 (6面)
- 組織拡大のとりくみ (7面)
- 埼労共のページ (8面)

2022全自治体訪問行動

各地域では、安心して暮らせる街づくりを目指して、自治体ごとの課題を事前に打ち合わせ、当日の懇談の中で重点課題として要求しています。

今回で21回目となる自治体訪問行動ですが、それぞれの行政運営のどこに課題があるのかを明確にするためにも、しっかりとした総括を行い、独自要求を整理し、23春闘での地域要求に活かしていきます。



志木市



狭山市



ふじみ野市



寄居町



北本市



八潮市



草加市

全国一律最賃など訴え!

埼労連と労働法制改悪反対埼玉連絡会主催の最賃・労働法制に関する定例宣伝行動が11月21日(月)午後5時30分から浦和駅東口で行われ、2団体・5人が参加しました。

全国一律最賃実現を求める訴えに加え、「労働相談フリーダイヤルの入ったポケットティッシュ・マスクなどを配布しながら、「コロナ禍のもとで労働環境が悪化し、さらに物価高騰が追い打ち



浦和駅東口宣伝

をかけて、労働者の暮らしはますます厳しくなっている」、「労働者保護の法制度を活用し、雇用と労働条件を守ろう」、「そのために一人でも悩まず、気軽に労働相談を」と呼びかけました。

また宣伝の中で、労働組合が最低賃金引き上げのために様々な取り組みを行っていることなど、労働組合が行っている活動についても知らせました。

宣伝中に、「私は埼玉に住んでいるけど東京で働いています。職場に組合がないので、一人でも入れるんですか?」と声をかけてきた女性もいて、改めて、労働組合を知らない人たちに広く周知するとりくみが重要だと実感することができました。

埼労連では、この秋に「埼玉アクション」として、駅頭などでの宣伝を呼びかけています。コロナ禍・物価高騰などで労働者の不安が広がっているときだからこそ、労働組合の存在が求められる情勢にあります。

県政への要求で埼玉県と懇談

県民大運動実行委員会

埼労連が参加している県民大運動実行委員会と埼玉社保協主催の県政要求共同行動が11月4日(金)に開催され、午前中の合同決起集会に団体の代表23人が参加しました。

県民大運動代表委員の埼労連・新島議長が主催者あいさつ、日本共産党埼玉県議団から村岡幹事長と秋山もえ県議が来賓あいさつしました。

午後には県政全般と社会保障分野の要求に分かれて、それぞれ埼玉県の担当課と懇談を行い、県政への具体的な要求について意見交換しました。

午後には県政全般と社会保障分野の要求に分かれて、それぞれ埼玉県の担当課と懇談を行い、県政への具体的な要求について意見交換しました。

組織拡大交流会を開催

蕨地区労協

蕨地区労協は11月4日(金)夜、幹事会メンバーを中心に、加盟組織にも参加を呼びかけ、埼労連・自治体訪問行動事前学習会&組織拡大交流会を開催し、4組合7人が参加しました。

地区労協では、埼労連大会での組織拡大中期計画達成に向けた組織拡大方針を受け、来年6月の組織実態調査までに「組織の2%、16人の実増」を目標として掲げ、各加盟組合でも組織の実増を図る目標と方針を明確にし、秋の拡大月間の取り組みを進めています。

組織拡大交流会では、組織増勢に向けた秋の拡大月間での取り組みについて、各組合の拡大グッズや推進ニュースなどを持ち寄り、状況の報告や経験を交流し、お互いに学び励まし合いました。

埼玉土建蕨戸田支部では、各分会で組合員の結集を図り担い手を広げる活動を重視、9・10月の月間で目標を超過達成する77人の新しい仲間を迎えるとともに、次世代の仲間を中心にしたバスハイク、シニア泊旅行なども実施、組織の結集を高めています。年金者組合では全組合員に拡大グッズを届け、年金引き上げ署名を活用しながら、身近なつながりで対話・加入の呼びかけを提起、新しい仲間を迎えています。さらに地区労協としても公務労組への組織的支援を図るため、埼労連の埼玉最賃アクションと合わせ、自治体職員向けに市役所早朝宣伝を行うなど、「組合の見える化」への援助に努めています。



新島議長あいさつ

11月も各地域で最賃引き上げを訴え!

埼玉アクション・最賃のとりくみ

入間地労連

入間地労連は10月26日(水)の夕方、入間市駅前で「この10月から最低賃金が31円引き上がり埼玉では時給987円へ」のチラシを配布するとともに、最賃引き上げの埼玉連のとりくみと全国一律最賃制度の確立と時給1500円をアピールする宣伝を行いました。

入間地労連加盟の6団体から9人が参加し、弁士は菊池事務局長(年金者組合)、一條幹事(入間市教組)がとめ、チラシをセツトした全労連・労働相談フリーダイヤルを記載したミニビラ入りポケットティッシュ320セットを配布しました。

宣伝中、70代の一般男性から「最賃が1500円になったら企業は給料を払えないのではないかと」と質問があり、そのまま30分近く熱心に話し込むという一幕もあり、社会的な関心の高さを実感しました。

今回の宣伝は11月30日(水)に取り組み予定です。

(入間地労連発)



入間市駅

春日部労連

春日部労連は11月7日(月)午後6時から6時45分まで、春日部駅西口で宣伝を行いました。

「最賃を1500円に」と大書きされた赤い横断幕のもと、「熱気の赤で春闘要求を実現しよう」と取り組みました。当日はSU春日部支部の仲間が3人参加して、合計6人で実施しました。横断幕はとも目立ち、駅利用者や市民の目を引き、元気いっぱいにはチラシ配布やスピーチを展開しました。SU春日部支部の仲間が初めてマイクを握ってスピーチをしました。また、宣伝中に数人の若い女性が駆け寄ってきて、内容について聞きに来る場面もあり、活気のある宣伝行動でした。



春日部駅

宣伝終了後には、「もっと通行人の心に響くようにやるとよかったです。でも若い人がやっているというのは大事だからよかったよ。次も頑張つて」と初めてスピーチしたSUの仲間先輩が声をかけてくれました。12月の宣伝では、加盟組合からの参加がもっと増えるように頑張ります。

埼玉連の地域組織では、23春闘をどうたたかおうかの議論が始まろうとしています。私たち春日部労連は「全国一律最低賃金制度の実現」と地域の賃金引き上げの運動をどう構築するか頭の痛い課題があります。みんなで議論して、みんなで地域からの運動をつくっていききたいと思えます。

(春日部労連発)

蓮田地域労連

蓮田地域労連は、11月15日(火)午後6時から6時45分まで蓮田駅東口で最賃宣伝を行い、全体で9人が参加しました。

9月23日に行われた埼玉連・最賃意識統一集会の提案を受け、蓮田地域労連は9月27日の役員会で、10月から12月まで毎月1回の宣伝を行うこと、仕事帰りに10分でも20分でもいいから参加してもらうよう各組合で声をかけることを決めました。

10月は7日を予定していましたが、あいにくの雨で中止になり、



蓮田駅

11月15日も朝から雨で、また中止かと心配しましたが、夕方には雨もすっかり上がり、何とか予定通り宣伝できました。コロナ感染者が増えてきていることもあり、ゴム手袋を用意してチラシ入りティッシュを配り、署名用紙もテープに準備しました。

(蓮田地域労連発)

飯能日高地労連

飯能日高地労連は11月6日(日)、「五感で秋を感じよう」と「秋の低山溪流さんぽ」を企画し、組合員と家族20人(うち子ども5人)が参加しました。

当日は午前9時、埼玉土建飯能日高支事務所駐車場に集合。天気にも恵まれ、支事務所から地元(271m)、御嶽八幡神社、ドレミファ橋、吾妻溪から飯能河原までの歩行距離・約5.5キロをゆつくりと約4時間かけて、ハイキングをしました。ご当地クイズを解きながらのハイキングを企画し、コースにある地元の小学生がつくった掲示板から問題が出て「この山で一番多いゴミは何?」については、鉛やキャンディーの包装紙だったことに、参加者も「へえ」と驚いていました。そのほか、「天覧山の名前の由来は?」などが問題され、地元を知るクイズにもなりました。

地域組織の行事も再開

午後1時までには終点の飯能河原に到着し、3時までバーベキューで昼食交流。コロナの関係でノンアルコールでしたが、肉と野菜を満喫しました。クイズの解答合わせと全問正解者への豪華景品抽選会も行い、景品は登山やハイキングに役立つメッセンジャーバッグ、タンブラー、子ども用には帽子や耳当て、外れた方にも参加賞としてマフラーが景品でした。赤黄に彩られた山々の景色や川

草加八潮地区労

草加八潮地区労は11月16日(水)午後6時から、獨協大学前駅において約50分、最賃宣伝を実施しました。宣伝には、地区労役員4人、年金者組合2人、草加市職1人、埼玉連から江口アドバイザーの計8人が参加しました。

全労連や埼玉連の最賃チラシを拡大したパネルをつくり、通行人にも見やすく、何をやっているのかが分かるようしました。立ち止まりパネルを見て、「まだ1000円じゃあないの?」「野菜も高騰して大変なのに」「アルバイトで生活費をまかなっているが、東京に本社があるので、時給は1000円以上ある」と年金受給者の方が話してくれました。大学生からは、「訴えの内容には賛成だが、署名で効果はあるのか」など



獨協大学前駅



BBQで団らん

のせせらぎに感動や癒やしをもらい、また、お腹もいっぱいになり、心も体もリフレッシュできた1日となりました。

(飯能日高地労連発)

比企労連

比企労連は10月23日(日)、毎年開催している平和行事を行い、11人が参加し桶川飛行学校平和祈念館を見学しました。

こんな近くに特攻の基地があったことは驚きで、平和祈念館として桶川市が残したことに感銘をうけました。

1935年に熊谷市に開校した熊谷陸軍飛行学校の分校として1937年、桶川分教場として設置されたものです。当時この学校に入学するには競争率10倍の試験を受けなければならず、途中成績不良者は歩兵部隊等に回されたとの説明がありました。

祈念館手前の駐車場に到着すると陸軍と彫られた2本のコンクリートの境グイが目につき歴史を語っていました。また正面玄関手前



桶川飛行学校平和祈念館

(比企労連・篠田博)

の質問が出て、埼玉連の江口さんが丁寧に説明してくれました。いづれの方にも、チラシを配り、最賃引き上げの話を広めてくれるように頼みました。年金受給者の方は「これから居酒屋に行く」とのこと、お店でも最低賃金を話題にしてほしいと頼みました。最後は「頑張つて!」と言って行かれました。

(草加八潮地区労発)

の左側に見過ごしてしまいそんな小さな小屋がありました、これがあると弾薬庫だと説明板で知りました。四方をコンクリートの壁で固め天井のみ簡易に作られ、事故による爆発時には天井に爆風が抜けるようになっていました。

守衛棟、車庫棟、便所棟として兵舎棟を見て回りました。荒川対岸にある滑走路(現在本田エアポートの滑走路として使われている)で「赤とんぼ」と呼ばれていた九五式I型練習機で操縦教育を受けていました。敗戦間際には生徒のみならず教官も特攻隊員として鹿児島県の知覧飛行場に送られたとの説明がありました。その当時の教官が身内にあてた遺書が数種類展示されていました。その中の乳飲み子(母親が栄養失調で乳が出なくて死亡してしまつ)にあてた遺書には、分別がわかるようになったら見せるようにとの添え書きがしてあり胸が熱くなる思いがしました。

桶川という身近なところに戦争遺物があり、そこを見学できたことは大変貴重な時間でした。

県や学校で働く労働者の賃上げ求め 地公労が県庁前で宣伝

地公労（埼玉県地方公務員労働組合共闘会議。埼玉県職・埼教組・埼高教）は11月7日（月）午前7時45分から8時30分まで、県庁前で県職員・教職員の賃金・労働条件の大幅改善を求め、当日午後には第1回交渉があることを知らせる宣伝を行いました。

宣伝行動には、当該組合員のほか埼労連事務局、全労連・全国一般、コープネットグループ労組から支援参加もあり、合計19人が参加しました。



県庁東門前

2回目の憲法大学習に55人 埼教組

埼教組は11月3日（木・祝）の午前10時から正午まで教育会館2階ホールで第2回憲法闘争大学習会を開催し、55人が参加しました。憲法闘争を強めようと開催している大学習会の2回目は、元・文科省事務次官の前川喜平さんをお招きし、「憲法と教育」について2時間以上、熱く語っていただきました。

前川さんは、文科省の役人でありながら、安保法制の時には国会前のデモにも参加。密かに良心に従って行動していました。今は、政府に対して何の義理もないとして、次のような話題について語られました。

○文化の日について、文化の反対語は野蛮。文化国家は戦争しない。憲法が公布されたこの日を「明治の日」に変えようとする動きがあるが、大反対だ。○安倍国葬は、違憲。思想信条の自由を侵している。国葬で神格化しようとしている。○統一協会は教育問題にかかわっている。国家の単位は

内容です。地公労として大幅な賃金引き上げを求めて7日から交渉に入っています。

国民春闘年末一時金集計

全労連や純中立労組でつくる国民春闘共闘委員会（国民春闘）は11月14日、会見を開き、年末一時金の第1回集計の結果を発表しました。

回答平均は昨年同期を上回ったものの、コロナ禍前の水準には届かず、物価高騰の状況を踏まえれば「大変厳しい状況だ」とみています。引き続き上積みを求めています。引き続き上積みは求めている。71件の回答の単純平均は0・

7カ月。金額の報告は43件あり、平均5万3809円だった。月数・金額ともに昨年の最終結果を下回っています。

黒澤幸一事務局長は「多くの労働者は物価高騰の影響を受け、生活が大変厳しい。実質賃金が増えない中、一時金は生活を支える重要な収入となっている。生活を守るために単組などでストを構え、上積み求めていく」と報告しました。

家という戦前の考え。批判的な精神をもつ子どもたちを育てていくことが大事。○一人一人がかげがない大切な存在。それが平和主義の根源になっている。戦争は人間の尊厳を奪う。○夜間中は、学び直しの場であり、日本語教育の場である。不登校で卒業した方や外国人の方にとって、たいへん重要である。○公権力を縛るためのものが憲法。立憲主義は国を縛るもの。義務教育でしっかりと学ぶ必要がある。○憲法と教育は支え合う。「学問の自由」は人権である。教育とは本来自由に行われるべきもの。教科書の政治的検定をしてはいけない。○道徳の教科書は問題。特定の思想を押し付けるものが多い。○学校現場に自由を与えるべき。

前川さんの講演は、教育の課題とからめて憲法について講演してもらったこともあり、たいへん力になる内容でした。

（埼教組発）

全県総目標を達成！ 埼玉土建 秋の拡大月間

埼玉土建の22秋の拡大月間は、最終日まで全県で大奮闘が繰り広げられ、11年連続で総目標を達成しました。全県の到達は3286人、拡大率4・93%、目標達成率103・4%で28支部248分会が目標を達成、拡大人数、目標達成率ともに昨年を大きく上回る結果となりました。さらに、青年部は目標307人に対し361人の到達、主婦の会は目標1166人に対し1265人の到達で、青年部・主婦の会ともに17年連続で総目標を達成、11年連続で組合・青年部・主婦の会の「トリプル達成」となりました。

7月以降、「集まる・集める」取り組みを再開させ、「支部活動者会議31支部」「支部出陣式30支部」などが行われ、「やっぱり集まったほうが元気になる」「集まったことで、月間に向かうことができた」など月間に臨む意思統一が進められたほか、「中間決起集会29支部」「ボウリング大会やバレーキュー、土建まつりなどの支部行事17支部」などが多く企画され、それらを月間の山場に、新しい仲間の協力を引き出し、拡大成果を積み上げました。

事業所対策では日中事業所訪問を引続き強めながら、「新設法人対策」「未組織事業所対策」が多くの支部で取り组まれました。また、今月間で多くの支部が学習会で取り組んだ「インボイス制度」は、多くの一人親方や外注の仲間、個人事業主に影響が出る、裾野の広い課題であり、高齢の仲間

拡大月間は、不況型の組織減少が続いていることに加え、後期高齢者医療制度の影響による土建国保の保険料大幅改定の影響で、過去10年間でも一番厳しい増減率のなかでたたかわれる月間でした。その厳しい情勢のなか「すべての仲間に拡大の意義を広げ、新しい力を引き出し、事業所対策を強化して総目標達成へ！」をスローガ

を廃業に追い込み、個人事業主として立ち行かなくさせる危険性のある制度です。引き続き、すべての仲間にインボイス制度を語り、組織外にも広げるなかで、春の月間に向けた対象者の掘り起こしにもつなげようと奮闘しています。23年春の拡大月間は、仲間の生活に直結する統一地方選挙と一緒に取り組むこととなります。インボイスとともに旧統一教会問題を話題にしながら、「円安」「資材高騰」「燃料高」など、悪政により仕事と生活が苦しめられている仲間の怒りと要求をあつめ、統一地方選勝利と1%実増を同時にかけこらうとしています。

3年ぶりに ボウリング大会

入間東部労連

入間東部労連は、10月28日(金)午後7時半からウニクスボウル南古谷でボウリング大会を開催し、9団体から36人が参加、12レーンを貸し切って行いました。

コロナ前までは例年実施していましたが、この間、中止を余儀なくされていたため3年ぶりの開催

となりました。大河内議長のあいさつと始球式から始まり、3年ぶりの開催ということもあり大いに盛り上がりました。入間東部労連主催の行事に初めて参加する人もおり、参加者同士で交流をしながらボウリングを楽しみました。

参加者からは「うちはまだ行事を再開できてないから労連でやってくれて良かった」「みんなで集まって楽しいことをすると元気がでる」など、今後の活動を進めていくうえで元気のでる取り組みとなりました。ボウリング大会終了後には表彰式を行い、児島副議長のあいさつで終了しました。

(入間東部労連発)



ウニクスボウル南古谷

非正規センター 第15回総会

全労連非正規センター第15回総会が11月13日(日)に、全労連会館(オンライン)で行われ、埼玉連から代議員として非正規部会の清宮部長と、全労連非正規センター幹事として加藤幹事が参加しました。

今年の総会も、長引くコロナ禍のもと、昨年に続き完全オンライン方式で開催され、午前中に記念講演(対談)と総会の基調報告、午後には総会では初めてとなる分散討論を行い、全参加者が発言できる総会となりました。

基調報告では、非正規センターの活動報告・運動の基調に続いて、各組織の代議員から、職場の実態や格差を許さない組合のとおりくみなどが報告され、不合理な格差是正のためにも、改めて非正規の立場で働く当事者の組織化をすすめていくことが確認されました。

新年度の非正規センター役員として、引き続き加藤幹事が選出されました。

12月の上映案内

12月の上映は、「アンダンテ 稲の旋律」です。

人間関係がうまく作れず、ひきこもるようになった主人公のSO Sのメッセージに応えようとする農業者の交流を通し、食と農と大地に触れ、そして人間再生を描く物語です。

日時 12月23日(金)

① 10時30分～12時30分

② 14時～16時

③ 18時30分～20時25分

場所 埼玉会館 小ホール

埼玉共専用の入場整理券利用で



9000円でご覧いただけます。



特別上映「雪道」のお知らせ

第二次大戦末期、日本軍慰安婦として過酷な運命を共に耐え抜いた二人の少女の友情を描いた韓国映画「雪道」。数々の賞を受賞した日本劇場未公開の名作です。

日時 1月8日(日)

① 10時30分～12時35分

② 14時～16時5分

③ 17時～19時5分

場所 埼玉会館 小ホール

特別上映には、入場整理券がありません。受付で『埼玉連新聞を見て来ました』と言っていただくと15000円のところ12000円でご覧いただけます。

※通常紹介している上映会とは鑑賞料金が異なりますので注意してください。

問い合わせは埼玉共まで

048-8338-0771

松竹喜劇 特別幹旋

松竹喜劇「老後の資金がありません」を幹旋料金で取扱います。

日時 2月1日～19日

11時30分～16時30分(日によって異なります)

場所 新橋演舞場

一等席12500円のところ、9900円でご鑑賞できます。

2月15日(水)と2月18日(土)の昼の部11時30分～10席ずつ確保しました。(他の日程でも希望があれば手配調整をおこないます)

渡辺えりと室井滋が、老後の資金問題にコミカルに立ち向かう、笑って泣けるハートフルコメディです。

問合せ申込みは埼玉共まで
【順次受付1月20日まで、埼玉連担当・山崎、龍尾】



丸大食品幹旋

丸大食品「冬のギフト」を小売り希望価格の30%割引で幹旋販売しています!

毎年恒例となっています丸大食品の幹旋販売です。すでにチラシは各職場に送付されています。

「申込書付きのチラシ」を利用し、直接申し込んでいただければ、ご指定いただいたところに直送されます。30%割引での取り扱いとなります(別途送料あり)。

今回の申し込み期限は12月9日(金)です。

フードバンク 第79便

第79便

埼玉連はフードバンク第79便を10月31日(月)、フードバンク埼玉の窓口・埼玉労協に届けました。

今回は熊谷地域労連が玄米30キログラムを2袋、SUから精米5キログラム、玄米5キログラムが寄せられました。毎回のことですが、玄米・精米の提供がフードバンク埼玉から喜ばれています。

物価高騰による国民生活への深刻な影響が広がっていますが、子ども食堂、貧困世帯支援のNPO団体などにフードバンク埼玉から配給されています。

埼玉連の新年度方針で、社会福



フードバンク第79便

祉運動としてのフードバンク活動を推進していくことが強調され、特に各単産・地域組織から保存食品を埼玉連に提供してもらおうフードドライブに力を入れていきます。寄せられた保存食品は埼玉連からフードバンク埼玉に運びます。単産・地域組織でのフードバンク活動強化をお願いします。